

# 玄海原発 3 号機 配管穴あき蒸気漏れ事故

## 瓜生社長「何があるか分からない」

## 無責任発言に対する抗議・要請書

2018 年 4 月 12 日

(株)九州電力 代表取締役社長 瓜生道明 様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会／プルサーマルと佐賀県の100年を考える会  
玄海原発反対からつ事務所／原発を考える鳥栖の会／今を生きる会／原発知っちよる会  
風ふくおかの会／戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／たんぽぼとりで  
東区から玄海原発の廃炉を考える会／福岡で福島を考える会／あしたの命を考える会

玄海原発 3 号機の配管穴あき蒸気漏れ事故について、瓜生社長は 4 月 2 日のテレビのインタビューで「再稼働については 6～7年止めていたので何があるか分からないと言っていたのが、現実になってしまって非常に残念だ」と半笑いしながら述べた。

「何があるか分からない」、原発はそんな危険なものだと自ら認めながら、住民の不安を無視して再稼働させたのである。そして、今、まさに事故を起こしたのだ。住民を不安に陥れた最大の責任者が、住民に謝罪もせず、「残念だ」とは無責任甚だしい。

今回の事故で、原発に何万とある配管の危険な現状、ずさんな点検体制が明らかになった。他の配管・機器・設備にも重大事故に至る可能性のある損傷があることが想像される。

昨年 8 月の使用前検査に際し、佐賀県の副島良彦副知事は「万が一にも事故を起こさない覚悟を持ち、ボルト 1 本まで真剣に取り組んでほしい」と九電に求めたが、またも住民は裏切られたのである。

原子炉を即刻止めるのは当然のこと、再稼働の中止を求める。